

本当の友達とは

東中学校 3年
小林 優月

私達が集団生活を送るうえで避けては通れない「友達」という存在。まず友達とは、お互いに立場や生活環境、職業などが違ってても尊敬し合える関係。そして、自分が失敗して相手が大成功したとしても、それに僻んだり妬むことなく敬愛できる関係だと思っています。ですが、このことだけで友達と言えるのでしょうか。認め合い、尊敬し合うだけで仲は深まるのでしょうか。なぜ人間関係で苦しんでいる学生がいるのか、本当の友達とはどんなものなのか、私が経験してきたことをもとに考えていきたいと思っています。

人間は一歳から二歳頃にかけて友達の存在を意識し始めます。幼稚園や保育園、公園、児童館などの公共施設で自分の世界を広げ、話すことができなくても同じ仲間として認識するようになります。私は自ら話しかけることができる社交的な性格だったため、男女関係なく、どんな人とでも仲良くできていました。環境に慣れてくると、物や人の取り扱いになったり、意見がぶつかり合い喧嘩をしてしまったりと面と向って思ったことや感じたことをそのまま素直に相手に伝えてしまい、対立することがたくさんありました。

小学校に入学すると、今までとは違い六歳から十二歳の子どもが集まっているので、ある程度の上下関係ができ、世界が広がっていきます。一、二年生のときは、学校生活の中で新しいことを学んだり、他学年と交流したりしているうちに自然と友達ができ、学校生活に不満を持つ児童は少ないと思います。小学校高学年、中学生あたりから心に変化が現れ、不満があったり、悩みがある年頃だと思います。この頃から考え方も行動も、友達も変わっていくと思います。生活していると誰だって苦手だなと感じる人や、自分と合わないなと感じることがあり、今までだったら湧いてこなかった感情が生まれてきます。

例えば、相手が嫌がることをしてみようとか、ある特定の人だけ仲間はずれにしようとか。これは全て「いじめ」というものです。そのいじめというものは、基本一人で行うのではなく、数人で行うことの方が多いそうです。私が経験したり、身の周りで起きたいじめでは、大体が一人対数人という感じで、内容は悪口、相手の物を隠す、避ける、無視をするなどといったことです。私はいじめられた側にもいじめてしまった側にもなったことがあります。いじめられていた時は、悲しいという感情よりも「なぜいじめられているのか」という方の気持ちが大きく、数年経った今でも鮮明に覚えているぐらい心に傷がつき、ショックが大きかったです。そのときは、恐怖で誰にも相談できなかったし、いじめ調査アンケートにも「いじめはない」という方に丸をつけました。それほど怖かったのだと思います。それ以来、毎日楽しく通っていた学校も行きたくなくなり、学校に行かないという選択も考えました。でもそこで学校に行かなくなったら私の負けで、相手の思うツボだと考えました。

次にいじめてしまった側になってしまった時のことです。当時友達ができるか、クラスに馴染めるか不安だったときに私に話しかけてくれた人がいて、徐々に仲が深まりクラスで数人のグループができました。仲良くなって数か月後、グループのある人が「あの人目障りだよな。」と言い出しました。すると他の人も「そうだよね。」と言っていて、「あなたはどう思っているの。」と私に聞いてきました。その時私は二つ考えました。一つ目はその考えを否定すること、二つ目は否定するとそのグループから外され自分自身が被害に遭うので、みんなの意見に賛成するという考えです。私は二つ目を選んでしまいました。とても後悔しています。一つ目の考

えを選んで勇気を出して言えていたらなど。
このグループの中の友達は果して本当の友達なの
のでしょうか。本当の友達とはどんなものなの
のでしょうか。私達に友達は必要なもので
しょうか。

傷ついたり、傷つけたりした過去を取り戻すことはできません。ですが、今からでも自分自身を変えることはできます。汚れた過去をバネに新しい自分に生まれ変わり、本当の友達とはどんなものなのか、日々心の中で言い聞かせ、行動することが大切だと感じました。勇気を出すのはなかなか難しいことですし、一歩前進して行動に移すことも難しいと思います。勇気を出せとは言いません。もっと自分の世界を広げてみてください。きっとその先には輝く未来と「本当の友達」が待っていることでしょう。人という命の尊さ、重みを感じて生活してほしいです。

